慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	Jesuitsといふ言葉(其の一)
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1940
Jtitle	史学 Vol.19, No.3 (1940. 12) ,p.20(400)- 20(400)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白錄
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19401200-0020

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

Jesuits といふ言葉（其の一）

Jesuits といふ言葉は、普通、例のカルギンがいひ出したと言はれてゐるが、これは宗教改革前二三世紀頃、既に一般に使はれてゐた。一三五〇年頃出たサクソニヤのルドルフが著「我主イエズス・キリスト傳」の中にかういつてゐる。「我々が洗禮を受けた時クリスチャンといはれるやうに、榮光に入つた時 Jesuits と呼ばれるであらう」と。所が宗教改革が近づくに連れて、此の言葉に何か陰險の意味がつけまとうやうになつて來た。パリサイの徒とか僞善者とかいふのと一脈相通ずるやうな意味合である。愈々本當の耶蘇會なるものが現はれて來ても、とかく放埒（リベルティース）派、賤民、謀叛人といふやうな言葉と同一視されることがあつた。

ロヨラ自身は、嘗て Jesuits なる言葉を使はなかつた。彼はこの修道會を Compania de jesus と呼び、之がラテン語で Socitas Jesu と譯された。Compania は明らかに、ロヨラの初期の軍隊生活の思出で、教皇の命令なら速刻どこへでも出かけようといふ軍團といふ意味であつた。

この Jesus といふ言葉を使ふといふのが方々で問題になつた。殊にその聲は英國に盛で、瀆神だと非難し之を改めさせようといふ嘆願書が國王や教會に提出され、教皇（シスト五世）さへ之に同意した位であつた。

（以下二十八頁に續く）